帯大谷 実力証明

バドミントン道高校TOP4大会

男子が2勝 女子1勝

仲間の応援を背にプレーする帯大谷の清水誠（札幌龍谷戦）

バドミントンの道高校選抜TOP4大会（同事務局主催）が3日、よつ葉アリーナ十勝（帯広市総合体育館）で行われた。今年1月に行われた全国高校選抜大会の南、北北海道予選それぞれで団体2位までに入った男女各4校が集結。団体戦（ダブルス2、シングルス3）を実施し、北大会男子1位の帯大谷は2勝1敗の成績。北大会女子2位の深川西の辞退で出場した同3位の帯大谷は1勝2敗だった。この大会は、新型コロナウイルスの感染拡大で全国高校選抜大会が中止となり、さらに高体連の全道、全国大会も中止されたことから、活躍の場を失った3年生を含む選手のために代替大会として指導者らが企画した。（大野篤志）

南北決戦苦杯も糧に

北大会を3年ぶり4度目制覇の帯大谷男子は、初戦の北海（南大会2位）、続く旭川実（北大会同）ともに3－1で2連勝。

〝南北決戦〟となった札幌龍谷戦は、エースの第1ダブルス、関根陸・池田侑輝組（3年・2年）が落とし、続く宇佐見慈・宇佐見慧組（2年）も敗れた。

シングルスでの巻き返しを狙ったが、第1シングルスの清水誠（3年）は南大会シングルス2位の富樫柚月（2年）に惜敗し、0－3のストレート負けを喫した。

公式戦ではないものの全道一を逃し、関根主将は「勝負どころでのミスがあった。それは自分たちの甘さ」と悔しさをにじませた。

15～17日には青森山田高で全国から選抜出場予定だったチームを中心に24校が集まって大会が行われ、帯大谷も出場。相澤俊彰監督は「緊張感のある試合ができ、気持ちの強さを見ることもできた。仕切り直しをするにはいい材料」と前向きに受け止め、関根主将は「3年生にとって最後の大会。力を出し切って、納得できる最高の終わり方をしたい」と決意を持って臨んだ。

劇的逆転「やり切れた」

女子 札幌静修を撃破

女子チームをけん引してきた3年生の（右から）中村来未と石原聡弓（札幌静修戦）

帯大谷女子はとわの森三愛（南大会1位）、旭川実（北大会同）と2連敗で迎えた最後の札幌静修（南大会2位）戦もエースの石原聡弓・中村来未組（3年）、続く岡本野々栞・上野稜佳組（3年・2年）が敗れ、後がない状況。

そこから濱下亜美（1年）、石原、中村のシングルス3連勝で逆転勝ち。石原、中村、岡本の3年生3人にとって最後の試合を勝利で終えた。

石原は「高校最後の大会。自分のためにも後輩たちのためにもすべて勝って終わりたかった。勝ち切れなかったのは悔いが残る」と喜びを抑えた。最終シングルスの激闘を勝ち、チームに勝利をもたらした中村も「全勝の目標が果たせず、悔しい」と言いながらも、「最後までやり切れたのは良かった。ダブルスは2人で戦略を考えながら戦ってきた。シングルスも自分のプレーを見つけていくのが楽しかった」とすがすがしい表情。岡本は「練習はずっとつらかった。でも仲間がいたから続けることができた。みんなに感謝です」と部活を通して得た大切な仲間との思い出を胸に刻んだ。

DF永坂が結婚♡

23日開幕へピッチ内外充実

スカイアース

永坂勇人

今季のJFL昇格を目指す社会人サッカーチームの北海道十勝スカイアースのDF永坂勇人（26）が結婚した。お相手は永坂と同じ中学、高校の同い年の女性。永坂は「2人で力を合わせて明るい家庭を築いていきたい」と語った。

チームは8、9の両日、札幌市内で今季初の公式戦となった天皇杯道代表を決める道選手権大会に出場。2人とも札幌市出身とあって、10日のチーム練習のオフ日に同市内で婚姻届を提出した。結婚を決めた理由を「明るくて優しく、料理上手な女性」と永坂は話した。

同日は開催予定だった東京五輪・パラリンピック特措法により、8月11日だった「山の日」を1日前に変更。特別な日に永坂は「縁起の良い日だから」と、自軍ゴールとともに最愛の女性も守り抜く決意を固めた。

23日開幕の道リーグを前に永坂が公私とも万全の状態で迎えるのは頼もしい限り。スカイアースのゴール前にそびえる187㌢の不動のセンターバックは、今季は副主将としてチームをけん引する役目も担った。

札幌や水戸などでプレーした元Jリーガーは十勝で2季目の今季、JFL昇格という道内初の快挙に向けて、力強い援軍を家庭内で得た。11月のJFL昇格を懸けた全国大会を見据え、永坂がチーム内外で高まった責任感を果たす。（有岡志信）

連盟旗野球

あすから3次戦

軟式野球の第43回連盟旗争奪大会は19日までに2次戦を終えた。20日から3日間の日程で3次戦が行われる。

＜2次戦＞　（19日）

◇十勝川A

ろそろそ05倶楽部	000001	1
幸誠電設	20220×	6

（六回時間切れ）

（ろ）安江、本郷－杉井

（幸）木柳－川端

▽三塁打＝元木（幸）

▽二塁打＝本郷（ろ）神本、高橋（幸）

▽審判＝荘田、角田、長瀬

◇十勝川B

タケシマSPオックス	010002	3
レアル	00401×	5

（六回時間切れ）

（タ）工藤、平井－安藤

（レ）岡村－宮崎光

▽三塁打＝宮崎雄（レ）

▽二塁打＝宮崎雄（レ）

▽審判＝大津、渡辺、小川紀

◇十勝川C

BB Soul	010000	1
コマツVERTEX	10400×	5

（六回時間切れ）

（B）赤坂、吉田－田中正

（コ）工藤、山田、古谷－石田

▽二塁打＝田中正、吉田（B）石森、古谷（コ）

▽審判＝松浦、伊藤博、江原

＜20日の試合＞（午前5時試合開始）

◇3次戦

▽十勝川A＝T・T・I－ベストスポーツ

▽十勝川B＝大上電気工業－池田ワインスターズ

▽十勝川C＝カーランツ－十勝バンビーノ

神社幟・幕　すぎうら　24-2323

前川優勝、宮下2位

ゴルフ全十勝レディース杯

【音更】ゴルフの全十勝レディース杯大会（十勝カントリークラブ主催）が4日、十勝カントリークラブで行われ、ベストグロスタイ80打の前川輝美がネット70打で優勝した。宮下由美子がネット71打で準優勝、3位は同71打の八橋佳代だった。18人が出場した。

上位入賞者。（左から）宮下由美子、前川輝美、八橋佳代

	O	I	G	H	N
①前川　輝美	39	41	80	10	70
②宮下由美子	44	42	86	15	71
③八橋　佳代	46	44	90	19	71
④畠山　美和	40	45	85	13	72
⑤杉山　京子	44	43	87	15	72

BG＝前川輝美80、伊藤京子80

ミノルシャープ3連勝

BG2・ばんえいGP

ばんえい十勝は16日、ばんえい競馬の真夏の祭典「柳月杯第32回ばんえいグランプリ」（BG2）を行った。第2障害を最初に越えた単勝2番人気のミノルシャープ（牡6歳、大友栄人調教師、島津新騎手、馬主は音更町の高山範久さん、生産者は同町の高山稔さん）がそのまま押し切り、夏重賞3連勝を飾った。タイムは2分21秒6（馬場水分1・7％）。2着は1番人気のコウシュハウンカイ（牡10歳、松井浩文調教師、藤本匠騎手）、3着は6番人気のメジロゴーリキ（牡6歳、松井浩文調教師、西謙一騎手）だった。

スタートでは①メジロゴーリキ、⑥センゴクエースが勢いよく飛び出しハナを奪いにかかったが、有力馬の一角の⑥が第1障害で膝をつき、まさかの失敗。第2障害までの道中は①が先頭で集団を引っ張り、⑧コウシュハウンカイ、⑨ミノルシャープが続いた。第2障害は⑨が最初に仕掛け、⑧、④シンザンボーイが続いた。⑨が一腰で登り切り、最初にクリアすると、鋭い加速で⑧を突き放してリードを広げた。最後は粘りのある走りで差を詰めてきた⑧を振り切り、先頭でゴールした。

北斗賞（BG3）で古馬重賞初勝利を飾った後、旭川記念（BG2）を勝利していた6歳馬ミノルシャープが重賞3連勝で夏の王者に輝き、「世代交代」を強く印象付けるレースになった。島津騎手は「馬が強いの一言。これから王者となっていく風格がある」と馬の強さを褒めたたえた。

鋭い走りでばんえいグランプリを制したミノルシャープと島津騎手

ばんえい記念（BG1）覇者のオレノココロが回避とあって、同馬のライバル、コウシュハウンカイとの一騎打ちとの見方が強かった今レース。展開は多くの予想通りに2頭による最後の直線勝負となったが、最後まで馬体を並ばせることなく完勝。「今まではコウシュハウンカイと並んで障害を下りると負けていたが、今は並んでいてもキレで勝負できる」（島津騎手）。

古馬戦線の主役の座を完全に奪取したミノルシャープ。来年3月のばんえい記念にも期待が懸かるが、大友調教師は「これからはハンデもきつくなる。ばんえい記念を見据えて大事に使っていきたい」と最高峰へ着実に歩みを進める。（大谷健人）

重賞3連勝を飾ったミノルシャープ。馬の左が大友調教師

ゴルフ

ミッドシニア藤嶋V

帯広白樺CC レディースは小林

【音更】帯広白樺カントリークラブのミッドシニア選手権とレディース選手権が7月18、25の両日、同クラブで行われた。60歳以上を対象としたミッドシニア選手権には22人が出場し、藤嶋信雄（帯広）が通算150打で、2位に4打差をつけて5年ぶり2度目の優勝を果たした。

藤嶋は初日を首位の小沢真紀（同）に3打差の75打の2位タイで折り返し、最終日も75打をマークして逆転した。

ミッドシニア選手権で5年ぶり2度目の優勝を飾った藤嶋信雄

8人で争われたレディース選手権は、小林たか子（音更）が通算161打で2年ぶり2度目の頂点に輝いた。小林は初日を75打で2位に6打差をつけ、最終日はスコアを落としたものの、リードを守り切った。

レディース選手権で2年ぶり2度目の優勝を果たした小林たか子

◇ミッドシニア選手権

▽スクラッチ

	G	
①藤嶋　信雄	150	（75、36、39）
②川原田義和	154	（78、38、38）
②小沢　真紀	154	（72、41、41）

▽ハンディキャップ

	G		H	N
①堀田　雅博	165	（79、43、43）	26	139
②小杉山　優	165	（77、45、43）	26	139
③秋田　茂	157	（75、43、39）	14	143
④窪田　和則	161	（85、41、35）	18	143
⑤前道　正司	156	（77、37、42）	12	144
⑥村上　良男	164	（81、40、43）	18	146
⑦村越　敏雄	159	（78、42、39）	12	147
⑧永田　孝夫	177	（92、42、43）	30	147

※上位3人はスクラッチ、それ以外はハンディで表彰。（ハンディ数は2ラウンド分）。同スコアはハンディの少ない方が上位。ハンディキャップの部の1、2位は大会規定による

◇レディース選手権

▽スクラッチ

	G	
①小林たか子	161	（75、46、40）
②前川　輝美	164	（81、41、42）

▽ハンディキャップ

	G		H	N
①八橋　佳代	189	（92、48、49）	42	147
②昏本　玉江	179	（87、47、45）	30	149

※1、2位はスクラッチ、それ以外はハンディで表彰（ハンディ数は2ラウンド分）

バドミントン

松友 混合複で現役続行

女子ダブルスで2016年リオデジャネイロ五輪金メダルの松友美佐紀（日本ユニシス）が、今後は混合ダブルスを軸に現役を続けることが18日、分かった。松友は混合複では金子祐樹（日本ユニシス）と組み、現在の世界ランキングは19位。

19日には松友とのペアでリオ五輪金メダルに輝いた高橋礼華（日本ユニシス）が引退記者会見に臨み、松友も出席する。

かちまいスポーツ

記録の速報は▼kachimai.mobi

写真がほしい▼0120-25-9410

Eメール▼sports@kachimai.co.jp

ファクス▼0155-25-2700